



つうしん リーベル通信



はつこうせきにんしや ほうじん やめちくしょうがいしゃぞうだんしえん
発行責任者：NPO法人 八女地区障害者相談支援センターリーベル
じゅうしょ やめしもとまち でんわ
住所：八女市本町17-2 電話：0943-22-2610 FAX：0943-22-2664
E-mail：liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL：http://liber-yame.net

しょうがいしゃぎやくたいつうほう
障害者虐待通報ホットライン

☎090-2580-0294

いつでもお電話ください



皆様、早くも2月半ばになり、平成31年度がもうすぐ始まります。ご存知のとおり、平成という年号がこの4月いっぱいまで終わり、新しい年号の初年度。新しい時代が来るといふ期待感が高まってきています。現在、八女市においては、平成31年度からの障害者基本計画の策定が行われています。当事者へのアンケート調査、団体ヒアリング等を通して、幅広く意見や要望等を把握し、障害者団体や関係機関での策定委員会を通して完成の運びになります。広川町においては、すでに平成29年度から新しい障害者基本計画が始まっています。リーベルとしては、委託元である八女市、広川町の基本計画が形にできるように、障害者の方が、より生活しやすい地域になるように、尽力して行きたいと思っております。その為には、八女地区全ての障害福祉関係機関(者)のネットワークが不可欠です。今年も更なるご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

センター長 大塚 博嗣

だい かい かいぎ 第24回 リーベルネットワーク会議

平成30年11月30日に1年ぶりの開催となりました。リーベルの活動報告その他、「今後のリーベルネットワーク会議について」と「地域生活支援拠点等整備事業(緊急一時的な宿泊事業)」について協議を行いました。

○今後の会議について

今回で24回の開催、加入事業所も60を超えました。通所、入所、児童、高齢者関係、保健福祉環境事務所、教育委員会など、八女地区の様々な障害関係に参加頂き、八女地区の福祉の充実が図られてきました。

今後、課題解決部会を立ち上げ、課題に応じた事業所等での活発な意見交換が必要と感じます。参加事業所については、リーベルに一任頂き、進捗状況については、随時ホームページにアップしたいと提案、賛同を頂くことが出来ました。又、今まで以上のネットワークの構築の為、年度初めに全体研修会を定例化していきます。

○地域生活支援拠点等整備事業について

すいれんの総合コーディネーターの大池氏より、緊急一時の受け入れ状況の報告がありました。その後、八女市福祉課の中島係長より受け皿について、登録が低調であり、地域全体で受け皿を作る必要がある。前向きな検討をお願いしたいと協力依頼がありました。

様々な障害に対応できる八女地区であると願っています。合わせて、登録のご協力をお願いします。

ぶんかかいほうこく 分科会報告

こども

平成30年11月2日にこども分科会を開催しました。明達館高等学校のサポート校である有馬高等学院／明達館STEC久留米の加藤さよ子学院長、岩下真平氏をお招きし、発達障害に特化した通信制高校の取り組みについてお話いただきました。

有馬高等学院／明達館STEC久留米では、教育的な関わりだけでなく、これまで法人内で培ってこられた福祉的支援、地域医療機関との連携のノウハウを融合させ、通信制で学ぶ学生をサポートされています。スタッフ配置においては、支援員（コーチング）、教員（ティーチング）、相談員（カウンセリング）と多角的に介入できる体制があり、学生が安心して学習に集中でき、個性や強みを発揮できる環境整備がなされています。

特に印象的だったのが「成果物」という、定期テストに代わる評価制度があることです。成果物のテーマは自分の興味関心のあること（パソコン・料理など）から選ぶことができるので、自分自身の強みを発揮することができます。

さまざまな事情や就学上の悩みを抱えている学生にとって、自身の長みや強みを活かすことのできる学校があることは、心強い進路選択になると思います。



けんしゅうかいほうこく 研修会報告

平成30年12月13・14日に佐賀県で開催された九州地区障がい者相談支援事業合同研修会に2名の相談員が参加し、相談支援を取り巻く現状と課題、また相談支援専門員の養成やスーパービジョンについて学習してきました。サービスを利用されるご本人主体のサービス等利用計画、またお一人の方との出会いを地域のニーズに変えていく力、形骸化させない自立支援協議会、日々研鑽する意識づけと非常に内容のある研修会でした。

特に意思決定支援をテーマにしたシンポジウムの中で「ママZルーム」代表の齊藤麗子氏より当事者の立場から心に響く言葉をたくさんいただきました。支援者主導であった過去の経験を「穏やかだったけど、喜びはなかった」と表現されました。支援者側が求める「安定」を優先していないか？ご本人の「挑戦」を応援しているだろうか？とても胸に突き刺さる言葉でした。また西九州大学の橋本みきえ先生より「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」の中の意思決定を構成する要素について触れられ、「意思決定支援は、本人に関わる職員や関係者による人的な影響や環境による影響、本人の経験の影響を受ける」という部分に焦点を当てられました。私たち相談支援専門員はご本人の意思を最大限に尊重していく立場にありつつ、ご本人の挑戦に寄り添いながら「一緒に意思を育ませていただく」ような活動をしていくのだと強く認識しました。

「意思決定支援」という言葉は噛めば噛むほど味が染み出てきます。これからは沢山アンテナを張って、咀嚼して、自身の感性を磨いていかなければと思います。

最後に、文献紹介コーナーに、齊藤麗子氏と愛娘のうららさん著作の絵本『こおりのひめ』をご紹介しますので、ぜひ手に取ってみてください。こおりのひめの答え探しの旅がすてきな世界観で描かれていますよ。

せいかつ 生活

11月7日、八女市社会福祉協議会にて生活支援分科会を開催しました。糸島の障がい者支援施設志摩学園管理者末原氏を講師としてお招きし、福祉・介護の現場で起こりやすい「イライラ」や「怒り」の本質を学びながら、自分自身で怒りの感情をコントロールする技術として、アンガーマネジメントの話をしていただきました。

八女地区の事業所から、24名の参加があり、研修会後のアンケートでは、どういった場面でイライラするのか・その原因について・今回の研修が現場で活かす事ができるか等について回答頂きました。

夜勤帯などで職員が少ない時、時間がなく焦っている時など、余裕がない時にイライラしやすい。何度お願いしても伝わらない時、思う様にならない時、叩かれるなどの攻撃を受けた時など、障害の特性上、どうしても発生してしまう支援の難しさに直面した時にイライラしてしまうといった声が聞かれました。

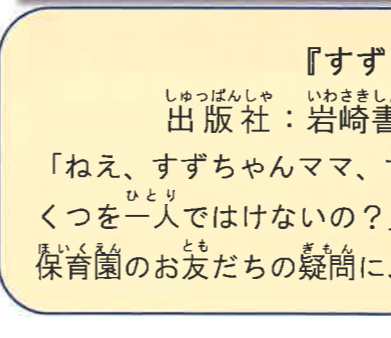


今回の分科会を通して、支援している側が怒りの感情を持った時、同時に多くの悩みや迷いを抱えて苦しんでいるという事を感じました。支援を受ける側・提供する側が共に「より良く」なる様に、今回の分科会の内容を活かしてもらいたいと思います。

ぶんけんしょうかい 文献紹介



『こおりのひめ』
出版社：文芸社 著者：さいとう うらら
さいとう れいこ
「どうして私はうまれてきたのかな」
こおりひめが自分探しの旅に出る物語。その答えとは？



『すずちゃんのおうみそ』
出版社：岩崎書店 著者：竹山 美奈子
「ねえ、すずちゃんママ、すずちゃんは、どうして年長さんなのに、くつを一人ではけないの？」
保育園のお友だちの疑問に、すずちゃんママがお手紙で答えるお話。





おめでとうございます！

せいじんしき 成人式♪

今、自宅でメダカの飼育をしています。どうしたら、子孫を増やすことが出来るか。大人のメダカと、子どものメダカの住みやすい工夫を考えるのが楽しいです。



おがた ゆうか 緒方 裕香さん

アイドルのライブ DVD を集めるのが好きです。中でもキンプリと嵐が好きです。仕事はパン作業をしています。パウンドケーキをこねる作業が、力がある作業ですが、大好きです。



さいとう まゆ 斎藤 真悠さん

ことし ふくしましょう こうづましょう 今年も福島小と上妻小よりカレンダーを頂きました



ふくしましょうがっこう 福島 小学校より

とくべつしえんがつきゅう じどう 特別支援学級の児童さんから てづく 手作りのカレンダーを頂きました。 それぞれ相談室に飾り 大切にに使わせて頂きます。



こうづましょうがっこう 上妻 小学校より

あいせつ

1月下旬から出産のためお休みを頂いています。来年の2月頃に復帰する予定です。その時はまたよろしくお願ひします。(堤)



今年も、匿名の方より、クリスマスに素敵なプレゼント(ギフト券)を頂きました。いつも、どこかで見て頂いていることに感謝し、業務に励んでいきます。本当にありがとうございます。



～編集後記～

梅の花が咲き、春の気配を感じるようになりました。先日、前回のリーベル通信の「トミーさんが教えてくれたもの」について、励ましのお電話をいただきました。今後も、より一層充実した通信をお届けします。また、皆様からのご意見や感想などをお待ちしています。(夕)